

日時：平成25年3月9日（土）

13:30～16:30

場所：日光市今市文化会館

平成24年度

地方分権・地方自治フォーラム

## 地方分権・地方自治フォーラム 第1部 基調講演

### ○司会

第1部の基調講演を始めさせていただきます。講師は白鷗大学教授で東北福祉大学特任教授でもいらっしゃいます福岡政行先生でございます。福岡先生、ご登壇をお願いいたします。

ここで簡単に福岡先生についてご紹介させていただきます。皆様方はお手元のプログラムをご覧ください。

福岡先生は東京都葛飾区のご出身で、早稲田大学政治経済学部をご卒業後、同大学大学院政治学研究科にて博士課程を修了されました。その後、駒澤大学助教授を経て、現在は白鷗大学教授及び東北福祉大学特任教授を務めていらっしゃいます。

ご専門の分野は政治学で、フィールドワークを重視し、何事にも現場を観察することが肝心というモットーのもと、全国各地から得た生の情報をもとに実証的政治学を研究していらっしゃいます。

また、ボランティア活動にも積極的にに関わり、これまで阪神・淡路大震災をはじめ、三宅島噴火、新潟中越地震、東日本大震災、そしてカンボジアの子供たちへの支援活動などを学生とともに行って、現在、アシストジャパンの会の事務局長も務めていらっしゃいます。

本日は、「日本の課題～地域力を引き出すために～」をテーマに基調講演をいただきます。それでは先生、よろしく願いいたします。どうぞ皆様、拍手でお迎えくださいませ。(拍手)

テーマ「日本の課題～地域の力を引き出すために～」

講師：福岡 政行 氏（白鷗大学教授・東北福祉大学特任教授）

こんにちは。これから 3 時間近い勉強会であります。ぜひ実り多いものにするために、少し早口になると思いますが、1 時間基調講演をさせていただくという事でお願いします。

冒頭、知事のご挨拶の中に「人口が減っていく時代である」という表現がありました。私の後輩で今、財務省に勤務している男が、10 数年前から勉強会の中で「人口が減って景気が豊かになった歴史は古今東西ありません」と言い続けている。正確には 3～4 年前から人口が減り、昨年 1 年間で 21 万人人口が減りました。生まれた赤ちゃんは、私の孫も含めて 103 万人ぐらいですが、亡くなった方は 124 万人。引き算をすると 21 万数千人、昨年は人口がはっきり減りました。とにかく人口減少時代に入り、ことしは 30 万人を超えるのではないかと言われ、来年は 40 万人、そして 2040 何年には 1 億人を切るところまでいくという。この後双子、三つ子が生まれればいいですが、なかなか簡単ではないということもあります。

ちょっとデータを見てきたら、栃木県も 200 万人を 2 万人ほど超えるときがありました。今は 200 万人を少し切り、日光市も最高で 9 万 9,988 人という数字がデータの中にあります。今は 8 万 7,000 人くらいかと思います。とにかく日本の国全体でちょっとシュリンクしているということだけ冒頭に触れさせていただきます。その中で、今までと同じようなことをしていても新しい何かは生まれれないということです。

ニトリという家具屋の社長さんとよくカラオケに行って歌っています。本名は似鳥昭雄と書きます。「先生、サムシングニュー。何か新しいものをつくらなければ、今の企業はともやっっていけない」ということを言います。

私は、ダイソー100円ショップの顧問をしています。年商は今、4,800 億円までできました。ダイソー100円ショップの社長は私の友人です。彼が一言言う台詞は「商いは飽きない。商売は飽きられたら終わりだ」ということであります。

そのことを含めて、これからのまちづくり、地方づくりというものは、いろいろな意味で少し知恵を出さないとなかなか簡単ではない。今までどおりのことでは変わってくることは何もないということだろうと思います。

水曜日に川越商工会議所の講演に行きました。定休日ということもありましたが、本当にシャッター街が並んでいる。「川越から横浜までが東上線と東横線でついに横浜までつながるのです」と関係者が挨拶していたので、私はちょっと皮肉を込めて、「水は高さより低きに流れるので、どちらかという川越の 35 万人の市民の皆さんも、買い物に新宿・渋谷に行く可能性のほうが大きいのではないか」ということをあえて言いました。

商売でも何でも、水は高さより低きに流れます。観光客の数字を拝見したら、3.11 以降いろいろなことがあって、鬼怒川温泉を含めた日光市の観光客入込数は 300 数十万だった数字が 270 万人ほど。去年は戻っていると思いますが、データがありません。そのあたり

を含めて、サムシングニューをやりたいという気持ちであります。

本論のレジュメに入る前に、日本の課題についてちょっとだけ触れます。

1点目は、きょうはことし19回目の講演です。昨日は神戸で講演をして戻ってきました。商工会議所や法人会、メガバンクや地銀、信用金庫の講演を年間100回ほど行っています。その中で、去年とことしの決定的な違いは、昨日の株に代表されるように1万2,200円で、3000円上がり、5年前のリーマンショック前の水準に戻ったということです。円も一時的に96円までできました。

ただ、小松製作所を立て直した坂根という会長さんは「リーマンの前は1ドルは120円台だった。80円、79円が90何円になったところで円安ではない。まだ円高である。こういうポイントをきちんと考えていかなければいけない」と。既にガソリンが上がり小麦が上がっていますが、私はまだまだ簡単にはいかないだろうということを含めても、本当に雰囲気違います。去年の新年は鬱病に近い状態でした。いろんなことを含めて本当に日本の国は大丈夫だろうかという感じがありました。ところが今年は何となく明るい。この2~3日は気温も高いですから何となく気分が明るいと、株高・円安ということがあるのでちょっと感じます。

私は1カ月前、講談社に行っている教え子から連絡をもらい、「本を書いてくれないか」と言われました。そのときの話です。今、ベストセラーになっている本があります。イエール大学の浜田宏一先生、「アベノミクス」の下書きをした方で、最近テレビにも出ています。この方の『アメリカは日本経済の復活を知っている』という講談社の本です。まだお読みになっていなければ、お読みになる価値はあると思います。この本は既に二十数万部出ています。まだ読んでいない方に1分間で要約します。

浜田宏一先生は、東大教授とイエール大学教授を経験して、70歳を超える方です。この方がこの本の1ページ目に、「大学で教えていて、自分の学生に大学院に残れということはなかなか言いにくい。一生面倒を見なければならぬから。だが、現在の日銀総裁の白川君という学生は極めて優秀だったので、東大の大学院に残らないかというふうに声をかけ、彼も残ってくれた」。中略「しかし、私は、40数年教員をしていて、自分が教師として本当に一生懸命やってきたのかというふうに言われると、ちょっと疑問に思う。友人にも多く言われる。なんで日銀はこんなデフレを許し、インフレ恐怖症の中で20年もやってきたのか。白川君を呼んで話をしても、彼は聞く耳を持ってくれなかった。教師として失格なのか。この日本のデフレ、ジリ貧の元凶は、全て、日本銀行総裁、日銀にあるという」。これが1ページ目です。最初の30~40ページは、ぼろぼろに白川方明という現日銀総裁の批判をしています。

1月の中下旬、白川さん、ちょっと顔が変だな、鬱病かなという感じがありましたが、案の定、早めに辞めることを決めました。私のゼミから日銀に行っている教え子が1人います。「先生今、日銀の中は白から黒になりました」。次の総裁は黒田さん、元大蔵財務官です。それは、少なくとも相撲に例えるなら白星から黒星に。日銀が負けたということです。

これが「アベノミクス」の背景です。

私が講談社で書く本のタイトルだけ言います。まだ半分しか書いていないので、盗作しないでください。何というタイトルか。タイトルだけで十万部売れると言われていました。『アベコベノミクス』。つまり、「3本の矢」で金融緩和はやりました。もうお金がじゃぶじゃぶです。だけど、日銀が銀行・金融機関の国債を買っているから銀行・信用金庫はお金を持っているが、それを借りて民間の中小企業が何か新しい商売をしようというレベルにはなっていない。

「財政出動」という2本目の矢があります。麻生太郎は日銀総裁を武藤という次官にしようとしたがだめでした。でも、黒田というアジア開発銀行の元財務官にした。もう財務省は万々歳です。潰瘍性大腸炎か何か知らないが安倍さんが下痢をしたら、麻生さん早くやってくださいと、埋蔵金までもう用意している。

新聞・テレビも、日本は借金大国で赤字国債なんか出せないなんて1行も書いていないじゃないですか。何新聞とは言わないけれど、A新聞とかN新聞とか。

とにかく日本中が沸き立っているが、儲けているのはファンドだけでしょう。ジョージ・ソロスという世界最高の金持ちは、既に1,000億円を抜いたと言われます。世界最大のハゲタカファンドのゴールドマンサックスのジム・オニール会長は、「1ドル100円でもまだ円高である」と言い続けている。そんな噂を聞いていれば、間違いなく為替で勝負する人は相当の金額を儲けている。

3本目の矢、「経済成長」「2%のインフレターゲット」「60万人の雇用」。本当に雇用が広がりますか。

きょう10時に宇都宮の駅を出て、おいしいお蕎麦屋さんが今市にあるからと聞き、11時ちょっと過ぎに着いて1軒で蕎麦を食べて、このあたりを1時間くらい走り続けました。なかなか静かなたたずまいです。杉の並木に入ったら花粉がすごくてくしゃみが止まらないゼミOBの運転者でした。

それはそれとして、静かであることはいいけれど、きのうの夜の宇都宮の駅前だって、閑古鳥もちょっといないくらいまで来たと思います。日本中走って講演をされていて、元気のいいところは恐らく数カ所ぐらいです。本当に日本中が今、冷え切っているというのが、これからの課題の3本目の矢です。景気をどうするか。その根底にあるのは、各地域がどれだけ頑張れるかです。上ではファンドが動いて1,000億円ジョージ・ソロスが儲けたという話を聞いたら、その分ゼロサムで負けている人たちがいるということです。

1万2,200円に戻ったって、日本の株は平成元年・2年には3万9,000円近い金額でした。3分の1にもなっていない。アメリカは史上最高値の1万4,300ドルです。なんでこんなに不当になっているかということも含めて、ちょっと考えなければいけないのがこの部分だろうと思っています。

ただ、「アベノミクス」は別名「アソノミクス」と言われ、麻生太郎が実質的に書いたと言われます。去年の9月、夜遅く、安倍晋三は松濤幼稚園の隣の麻生太郎の家に入り、「総

理大臣をもう 1 回やらせてもらいたい。麻生さんにはぜひ副総理、財務大臣で私の後をやっていただきたい。だから協力してもらいたい。石破でも石原伸晃でも、石がつくけど共にダブルストーンは軽石だから俺がやりたい」と言った、かどうかわかりませんが。そのことを含めて、安倍・麻生のラインで今、大蔵省は日銀を押さえ込み、アメリカと完全に手を組んで動いている。だから、それにある程度乗りながら、あべこべになるかもしれないから、地域がどれだけ頑張るかということが恐らくきょうのテーマであり、日本という国のテーマであろうと私は思っていますので、冒頭にちょっと時間を使ってお話ししました。

レジュメに入ります。まず初めに「寄らば大樹の陰」という言葉が日本にあります。何となく大きいもの、強いものに寄ってしまう。「泣く子と地頭には勝てぬ」という言葉もあります。私も孫が来たら孫第一で、ほかはどうでもいい感じです。「長いものには巻かれろ」という言葉もある。日本人のいいところであり悪いところは、強いものがあるとずっとそれに従ってしまう。その分中央というものに対して日本の国は弱い。明治時代以降、中央集権という DNA が何となく私たちの体の中に染みついていると思います。

知事さんが偉いとか、中には「知事殿」と言う人がいますが、私は後輩筋ですから「福田」と軽く呼び捨てにします。埼玉県知事も後輩です。宮城県知事は教え子ですから、当然「村井」と呼び捨てにします。

そんなことはどうであれ、とにかく日本では、知事が偉いとか、市長が偉いとか、国会議員が偉いとかというようなところがありますが、あくまでも国民主権ですから。あくまでも憲法上、主権は国民にあるということを考えれば、地方分権だって、税金を払っている市民が主役の政治だということは当然です。そうは言っても、何となくそういう雰囲気になるということです。

第 1 章ですが、「官尊民卑」という言葉が明治時代からあった。東京帝国大学法学部を出た人が、当時は大蔵省ではなく内務省、今の自治省は総務省、これから全国に行って日本中を押さえ込んだ。山縣有朋の時代です。官が尊敬されて民が何となく下だという発想が四文字熟語の中にもある。

そのいろいろな流れの中で、日本という国はやっぱり東大出の官僚たちが偉いと。霞ヶ関の中でも、大蔵省はほかの省とは別格のところがあります。私は 30 年前から東京霞ヶ関で、大学の先生や新聞記者、そしてキャリア官僚など何人かで勉強会をやってきました。いつも大体司会をしているのですが、その日は発表が郵政省の人間でした。ちょっと遅れて来るという連絡があったのを聞いた同じ東京大学法学部のクラスは違う別の大蔵財務官僚が、「郵便配達で遅れているんじゃないですか」と。同じ国家公務員上級職試験を受けて、片方は財務省、片方は郵政省(今の総務省)で、そういう冗談を軽く言う。そこに、自分たちは同じ東大でも大蔵省なんだ、大蔵省の中でも、主計局があれば主税局は下がる、理財局に至ってはもっと下がる。こういうようなものがずっと出来上がっているということです。

私は先日、警視庁に行きました。万引き防止の会です。おまわりさんの 100 人ぐらいの

会です。行くと、警備担当が後輩ですので、警視庁の入口に迎えに来てくれた。そして会議室に入った途端、「官民一体で万引防止に総力を上げてゼロ運動をする」とあった。「官民一体」です。私は後輩のキャリア官僚の警察官に「おまえ殴ってやりたいけど、今は殴っちゃいけないから、看板を変えろ。何が官民だ、民官一体だろう。民が先で官が下だ。民がやることを官が支える。何考えているんだ」。大学の後輩の課長は柔道4段、こちらは空手5級、勝てないけど。でもそういう気持ちが警視庁の中にもある。私は納税者として絶対にそういうことは許さないというのが、今の中身です。

2番目の地方分権の歴史については、後ほど知事、そして日光市長からお話があると思います。1993年というから20年前になりますが、地方分権推進決議というものが行われました。でも国会の決議なんて屁の突っ張りにもなりません。格好をつけてやるだけです。最高裁判所とか何とか裁判所が「定数不均衡だからあの選挙はだめでした」と言ったって、去年の選挙はそのまま有効です。国連の決議だって、やっと北朝鮮への制裁に中国が同意してくれたから今度は動きますが、今までは、とにかく北朝鮮は悪いことをしてはいけませんと宣言していただけ。

地方分権推進決議から20年。そして地方分権一括法は1997年で、2000年4月から施行されて約13年。475本の関連法案が成立しましたが、これを全部覚えている人はほとんどいません。私も、地方自治の専門家ですが覚えていません。

Ⅲ-②に入ります。「三位一体の改革」という言葉を小泉純一郎さんが使いました。1つは税源移譲で、国から地方に約3兆円の税源を移譲する。これは今、何となくできています。

補助金の廃止・削減。国から地方への補助金を減らす。4兆円減りました。そのかわり税源が少し戻ってきたけれど、1兆円足りていません。

地方交付税の見直し。国は国税3税の32%を地方にまかななければいけない。見直したら5兆円減ってきました。この数字はそれだけで覚えてください。三位というのはi（税源移譲）とii（補助金廃止）とiii（地方交付税の見直し）の3つです。この姿から見られる姿は、一言。地方分権ということを決議されて、分権一括法が出て、何百本もの法律が通っているいろいろなやっているが、大蔵省も総務省も、何だかんだ言ったって俺たちお上(中央)が権限を握っているの、こんなようなことをやっても、やってきたことは、国は借金大国だから財政再建のためにどうもこの地方分権が使われた部分がある。パンフレットの中にもありますが、もちろん確実に進んだところもある。だけど、憲法で保障されている住民自治、私たちの町は、私たちの市は、私たちの県は私たちが決めるのだというところまでは、実をいうとなかなか行っていない。自治体の自由裁量権はもちろん進んでいます。昔ほどではありませんが、まだまだ道半ばで、何か言うと国が文句を言うところはまだある。

一例。きょうこの後、車で陸前高田に向かいます。明日は3.11の前日ですが、日曜日ですので。2年目の追悼の式典をやる。私の弟子である陸前高田市長の戸羽太という49歳の男に来てくれと言われて伺います。

彼が半年ぐらい前に赤坂の事務所に来ました。しょうがないからコーヒーの1杯くらい出してやりました。「何しに来たんや?」「はい。林野庁に行って、高台の3,000本か5,000本の杉を伐らなければ高台に復興住宅をつくることができないので、それのお願いに来ました」。そうしたら、「この林をつくるために140万円林野庁から助成金が出ているので、急に伐ると言われても、それは検討させていただいて、半年待っていただきたい」と言われた。被災者が仮設住宅で大変厳しい生活をしているのに、半年待てと。頭にきて、歩いて霞ヶ関から赤坂の私の事務所に来た。「百何十万、利子つけて返してやれ。そのぐらい義援金集まっただろう」「集まっています」。そして、1週間で認可が下りた。木を伐って、水道か何かインフラを通して、初めて土台づくりをして復興住宅5階建を建てたい。それなのに半年待てという。被災者の目線になっていないじゃないですか。住民自治になっていない。ところが、嫌だけれど政治家をちょっと使えば……。官僚は、陸前高田の市長がやって来て、補助金を出してやったのに、せっかくできた杉を何千本も伐るのかと。だけど、津波が来るのだから高台にしかつけれないじゃないですか。現場のわからない霞ヶ関の高層ビルの人間が、慣例どおりにやる。絶対許せないでしょう。

その感覚があべこべなのです。中央が偉いと思っている。ちょっと下品ですが、だれのお金でおまえらは飯を食っているんだ。その部分を持たないと、なかなか突破することができないということです。

IV番目、今日の本テーマです。「地方発のイニシアティブとポジティブ」です。今、ポジティブという言葉がはやっています。とにかく地方からいろいろなことをポジティブにやろう。ネガティブではだめ、控え目ではだめ。何でもとにかく文句を言わなければだめというようなことです。

まず、天下りと出向そして地方出先機関。いろいろな改革がありましたが、まだ十分ではないのです。かつて29歳のMOFが税務署長でした。栃木県の南のA市、足利市なんて言っていない。そこの法人会に15年くらい行っています。そうしたら、足利税務署長29歳が遅れて来た。遅れて来て挨拶に立ったこの男の台詞が「霞ヶ関から来たので少し遅れてしまいました。申し訳ありません」。終わって懇親会になってからそばに来たので、「おまえ、どういう言い方だ」と。29歳で大蔵省では係長クラスの大蔵官僚が税務署長。「一々霞ヶ関から来たとは、言わなくていい」と言ってやらないと本人はわからない。霞ヶ関の大蔵省から俺は足利税務署長になって来ている。こういうのは、私は大嫌い。そういう感覚が全員にある。

前の財務省事務次官の勝栄四郎、勝海舟のひ孫か何か知らないが、今度IT何とか研究所の長になったら、そこに500億円の補助金が入ったそうです。退職金がわりに500億円。すごいでしょ。その関係の株は今、3倍に上がっている。そういうのを本当は許してはいけないから、地方が頑張る。

中央との人脈はパイプです。人脈はイコール金脈です。金融機関にも日銀から天下った人がいた。大蔵省もいた。今は税務署長も中止になりました。みんなが文句を言ったから



です。そういうようなことを含めて、天下りや出向、地方の出先機関はなるべく削減してゼロにして、地方の現場で判断してもらおうということを、もっともっと力を込めてやるのが本当のきょうのテーマになるだろうと思います。

でも、頑張っている自治体もいっぱいあります。例えば、地域密着の強さで住民自治を本気でやっているところ、福岡県大野城市。私の弟子筋が 1 人、この中で中心的にやっています。人口 9 万 4,000 人、職員の数 420 人。人口に対して職員の数で日本で一番少ない市です。そのかわり、百何十人の契約職員・パート職員がいます。窓口コンシェルジュが立っています。制服を着た 40 代ぐらいの女性の方で、元銀行でコンシェルジュをやっていた人です。おばあちゃんが入ってくる。「おばあちゃん、きょうは何ですか」「きょうは、生活保護と年金と〇〇と 3 つなんです」。すると、コンシェルジュの人が「34 番のカードを持っていてくださいね」と。銀行と一緒に。そして 10 分ぐらいして 34 分のランプがついた瞬間に、呼び出さずにそのコンシェルジュの方が「おばあちゃん、こちらの 4 番の窓口で座ってください」。座ると、そちら側に市の人間が順番に来るのです。ワンストップサービスです。今はどこでもやっている。バイトはいるが、とにかく職員数を徹底的に減らしながらやっている。先駆的なところですので、きょう帰られたらパソコンで一度見ていただきたい。

長野県下條村。三平さんの娘の夫、テレビタレントの峰竜太のおじさんが村長をしています。行くと彼の顔写真が出ています。ここは道路工事をやるたびに、コンクリートや砂利を全部役場が用意します。今までアルバイトでやっていたおじさん、おばさんたちが全部やるのです。道路修繕にかかるお金は材料費プラスアルファです。お弁当ぐらいは出しますが。そういうやり方。

福岡県春日市。最近テレビでやりましたが、教育委員会がいろいろ動いて、部屋の仕切りをなくしてどこからでも見えるようにして、いじめをなくしている。教育委員会は、校長先生の権限で全てを動かす。どこかの大阪の市長のように、突然、桜宮高校の入試を中止するなんて言わない。現場に任せる。現場主義というのは、要するに住民自治の原点ですから。

三重県松阪市。私の松下政経塾の教え子が市長です。2 回目の当選をしました。何と 4 年間に 680 回の住民協議会を開いた。きょうは松阪市何とか地区、小学校の何とか地区の方と 30 人、50 人と集まって、その地域で何が問題になっているか、カラスが出てきたとか、ここの崖が雨が降ると崩れそうだと。それを聞くために、市の職員と一緒に夜 2 時間ぐらい行って、4 年間やり続けた。住民とのコラボレーション、一緒にやるということです。これはテレビでも一部放映されましたのでお気づきかと思います。

鹿児島県阿久根市。人口 2 万数千人の鹿児島県阿久根市の全職員、市長から教育長、町立病院の医師まで、給料が全部インターネットで出てくるようにした。それが話題になって、阿久根ショックと言われている。前の市長はクビになってしまいました。でも情報公開としては大事です。

自動車のまち豊田市、人口 38 万人で職員は 2,200 人ぐらい。同じく 38 万人ぐらいの福島県いわき市は、市民病院もあるけれど職員数は 3,600 人。

神奈川県横浜市の人口は 360 万人。でも職員の数は 2 万 9,000 人。5 年前、橋下徹が出てくる前の大阪市は、人口 260 万人で職員 4 万 9,000 人。人口が横浜市より 100 万人も少ないのに、職員の数は 2 万人多い。それは、大阪水道局、清掃局。1 日 2 時間しか働かないという例の問題。

そういうようなことが実をいうとあちこちにあるので、それに住民が意見を言って文句を言い出した。民官一体だとある私の文字は民が先ですが、民がやることを官の役場や市役所や県庁が応援するというやり方です。本当はきょうパワーポイントを出そうと思ったのですが、設備がないということです。知事には近々届けますが、日光市にもお届けします。

香川県高松市丸亀町。さっきの「水は高きより」ではないですが、本四架橋ができていよいよ高松の時代だと思ったら、通過点になってしまった。高松市駅前の丸亀町商店街は売上が減って潰れかかり、シャッター街です。ここに若者が 35 人。勉強して頑張った中心が、実は立命館大学の私の関係者です。古川君が頑張って、V 字型改革した。まちのまん中にお年寄りたちを集めた。1 階・2 階・3 階は定期借地権で地主さんにお店をやってもらって、3 階に住んでもらった。4 階にはクリニックや介護施設に入ってもらった。15 階建てのビルを建てて、68 平米平均で 2,100 万円ぐらい。シルバーバリアフリーマンションにした。7 棟完売。1 本路地を入ったところにはデベロッパーが入り、大和ハウスがいろいろな企画をやってくれる。西日本では有名な成功した例です。きょう、200 枚のパワーポイントを持ってきていますので、ぜひ興味のある方は見てください。

実をいうと、4~5 年前に福田富一知事と食事をしました。餃子しかおごってくれませんでした。これからの時代は中山間地域です。私は秋田県の大学の客員教授をして、上小阿仁村という小さな村の研究をずっとしています。京都大学の先生たちがやってくれています。知事と何となく話したのは、雪が 5 カ月も 6 カ月も降っているとき、まちの真ん中で高齢者たちがせめて週末だけでも一緒にご飯を食べて、美容院でマニキュアを塗って髪をちょっと切ってもらおうということです。

私の母親は 99 歳で、今は介護施設を出たり入ったりしていますが、それでも私の女房がおしゃれなブローチをつけていけば、「それちょうだいね」と取ってしまいます。若干認知症が出ています。お年寄りたちがみんなが集まってお話することがいい。だけど、農耕民族だから、秋田県なんかは絶対に動こうとしない。だけど、これからはまちの真ん中に集まる方がいい。これが丸亀で成功したケースです。

足利でも来月、法人会の連中が勉強に集まります。私が言うより、パワーポイントで絵を見ればすぐわかります。今市の蕎麦つきなら私はいつでも来ます。火曜日の午後なら授業の後に飛んできます。蕎麦を食べさせてくれれば何でもやるという麵食いの人間ですので、呼んでください。

次は観光立市。これは日光市もそうです。今はちょっと落ちているかもしれませんが、見事に 300 万人前後。私は飛騨高山市の観光大使をしています。ここの観光協会の会長は商工会議所会頭で蓑谷さんという 80 歳を超えている方です。この人はものすごい人です。旭山動物園の話が私でしたら、旭山に行ってくる。沖縄の美ら海水族館はリピーターのとれる水族館ですが、こういうところに行って全部見てくる。東京亀戸にサンセットストリートというのがありますが、これはセイコーの跡地ですが、行って見てくる。とにかくぶらぶら歩いて成功して、高山市は二百数十万人の観光客入り込みがあり、依然として微増です。もちろん高速道路もできて、名古屋から 2 時間、大阪からも 3 時間、そして金沢に道路がつながりました。通過点だった高山が、泊まって安心できる、1 時間ぐらいぶらぶら歩きができるまちになった。ドラマが何年前前にありましたが、原宿と同じように 1 時間ぐらい歩こうねという感じのものをつくっていて、リピーターが 4 割です。今は外国人客の影響がものすごく大きいです。

次に、日本という国はとにかく赤ちゃんが生まれません。というより、気のきいた 30 代の女性は結婚しない。旦那の汚いパンツを洗うより仕事をしたほうがいい。キムタクが旦那でも、キムタクのパンツは洗いたくないという女性もいっぱいいる。福山雅治なら洗うかもしれないが、それはわかりません。

ところが、きょうの出席者の中に、昭和 22 年、23 年、24 年の団塊の世代の方がおいでだと思ふ。何とこの 3 世代だけで 660 万人生まれた。そしてまだ生きている。特に 22 年は、265 万人生まれて、まだ 249 万人がご健在。去年、全員が高齢者になり、去年の 9 月、日本のシルバー人口は 3,000 万人を突破した。喜んでいいですか、悲しんでいいですか。赤ちゃんは 103 万人、じいちゃん・ばあちゃんは 1 年間で 249 万人。年金満額受給。

私は 67 歳、昭和 20 年生まれ。19 年、20 年、21 年の人は手を挙げてくださいますと言いませんが、少ないのです。戦争の最中だから。少ないのと同時に、よく死ぬ。もうことしになって同級生が 2 人死にました。私は早稲田大学のアナウンス研究会です。逸見政孝、渡瀬恒彦と同級生です。17 人中、逸見政孝を含め 4 人死にました。渡瀬は今、タクシードライバーのバイトをしたり刑事をやったりして、まだ忙しいです。私もちょっとバイトをしながらやっています。

2 割くらい死んだのに、22 年の人は、戦争が終わって戻ってきて結婚して十月十日で生まれ、トウモロコシやジャガイモをみんな食べているから元気です。あと 1 年 9 カ月で 300 万人高齢者が増える。3,300 万人。あと 1 年 9 カ月です。生まれる子供はことしと来年で 200 万人ちょっと。無理でしょう。

この時代、私は 43 年大卒。5 年間大学院に入った修士・博士課程。友達や後輩が結婚する。当時でも結婚式に 2,000 円ぐらい持っていかなければいけなかった。初任給が 4 万円ぐらいのときです。不二家のショートケーキをつくるのに夜 10 時から朝の 6 時までバイトして、時給 125 円、8 時間で 1,000 円。2 日徹夜して結婚式にお祝い金を持っていく。結婚すれば子供が産まれる。家電製品を買う。今の上海です。

今は結婚式場も少ない。亡くなる人は多いが。冠婚葬祭は、葬祭のほうがかなり大きくなってきている。これが我が日本のシルバー大国。

円高による空洞化は、冒頭で触れたからいい。

借金大国。なぜ金利が上がらないかといったら、金利が上がったら、その利子を国は払わなければならないから、皆さんの金利なんか、ついていてついていないようなもの。だからなかなか金利は上昇しない。

昔、郵便貯金か何か、金利が6%くらいの時代があったそうです。私の母親などは、1,000万円くらい持っていて、もう何十万円もお金が入ってくるらしい。小遣いを孫たちに随分あげていた。今は1%つくかどうかだというふうに思う。

給料が上がって金利がつかない限り、日本の3番目の経済成長というか消費は絶対広がらない。

この間、日系ウーマンの仕事をして、30代のキャリアの記者が来た。「今、30代の気のきいたOLさんだつて、夜8時か何時かにスーパーやコンビニのお弁当が半額になるのを待ってから買って、それを家に持って行って晩御飯で食べて、翌日のお昼の弁当に入れて持ってくる。500円で1つのところを2つにする。そうやってキャリアウーマンでも節約しながら、ファッションとかいろいろなものにお金を使っていく」。こういうふうにお話ししていました。

4点目の「ユルユル大国」は、陸前高田で子供たちの復興のお祝いがあったので、とちまるくんを知事にお借りして、かついで持っていきました。学生たちが中に入った。ユルキャラは子供たちが触りに来るんです。陸前高田市長が「先生、ユルキャラを5人ぐらいどこかで借りてきてよ」というので、私の教え子の浜松市長とかいろんな人に頼んで、ユルキャラを借りてやってきました。そうやってやるとやっぱり楽しい。ただし、日本の国自体がユルキャラになっちゃった。ユルフレ状態になっちゃった。

原因の1つはゆとりの教育で、ここは若者に頑張れと言ってもなかなか頑張れない。私はむしろ、40代、50代の子育ての終わった女性たち、60代のシニアの世代が、もう1回地域社会の中のまちづくりに先頭切ってやる。そのとき、民のボランティアを官の役場が応援する。そのシステムをぜひつくっていただきたいという気持ちは、かなり強く持っています。

結論。この講演を依頼されてしばらくして、日光での直下型地震の報道がありました。壊れた家の映像もありました。こうなってくると、大変つらいですが、風評被害というものもだんだんと出てくる。

私は会津若松に友人がいて、去年の11月に講演に行きました。いよいよ『八重の桜』が始まるからと。それでも観光客は戻りません。もう放射能の被害はほとんどないのです。会津若松は、東北新幹線や東北自動車道より北側、西側にあります。それでもやっぱり、観光客は3分の1になりました。

温泉の関係者と勉強会をやったときに、「つらいですよ、『八重の桜』が始まったからと

思っても、綾瀬はるかちゃんだけではなかなかうまくいかない。西島何とか君の裸の姿が格好いいだけだというのが評判になっている。よくわからないけど。

現場に行ってみて、私は東北福祉大学の特任教授を自分から望みました。ほかは、白鷗大学以外は客員教授です。でも、「来てください」と言えば、私は喜んで、秋田の大学、岐阜の大学、東京女学館大学に行っています。今度は関西の大学に行きます。だけど、東北福祉大学だけは、私の先生が学長でもありますから。白鷗大のゼミ生と一緒に、今晚からボランティア活動に入ります。月曜日の授業にして、週末はなるべく避ける。

なぜそれを言うかということ、去年のゴールデンウィーク以降、東北のボランティアははっきり減りました。仙台の国分町の賑わいは全くありません。

復興の比率は、陸前高田のがれきは 27%。福島県双葉町の皆さんは、埼玉県加須市ではまだ 150 人が高校の教室で寝ている。こんな最中なのに、この町は町長がリコールされて、来週か再来週に町長選です。両陣営から応援に来てくれと言われたが、町民不在・住民不在の選挙なんか今やるな、まず復興住宅をつくるのが先だろうと思って、ノーコメントを貫き通している。

150 人の平均年齢は 72 歳。借上げ住宅、仮設は当たっている。「先生、当たってたって、2 人、3 人ばらばらでみんな仮設に行ったら、間違いなく 2 週間で鬱になる。ふらふら歩き出す。だったら、もう 70 過ぎてセックスするわけじゃないから、1 つの教室に 6~7 人、近所で付き合っていたおじちゃん、おばちゃんたちがいる。咳払いもあるしおならをする奴もいるだろうが、人間のぬくもりがあるから、俺は最後までここに立ちどまって、みんなと一緒に、まとまった仮のまちをつくってもらいたい」。それが、木を伐るのに半年待てという。だれが考えたって腹が立つことです。そういうのを、とにかく少しずつ文句を言いながらやっているという状態であります。

とにかく大胆な発想。サムシングニューもかなり大胆な発想。今までとは全く違う発想をしないと、ジリ貧の日本の国は、実をいうと上向きにはならない。株とか何かはファンドがやっているだけです。レバレッジとって、1 億円の金を持っていれば 50 億円まで使えるのです。負けたときは逃げてしまえばいいわけです。そういうものでは、私はよくなるまいと思えます。

私はこの 1 月から、新現役ネットというところの理事長になりました。前任者は岡本行夫外交評論家で、同級生です。アメリカに留学するので 1 年間受けました。高齢者に新しくもう 1 回現役で働いてもらおうという 1 万 5,000 人の全国ネットの会です。三菱商事の小島会長にバックアップしていただいて、みずほ銀行や全日空、産経新聞、フジテレビなど多くから協力いただいた。それはどうでもいい。その会の副理事長は加藤タキという我が同期生です。

お母様が 104 歳で亡くなった加藤シズエ。この加藤シズエが亡くなる直前、私の尊敬する大先輩筑紫哲也さんに「あなた最近、テレビで言うことが丸くなったわね」と言っていたと。筑紫さんは発言が丸くはなったかもしれないが、その後、がんで亡くなら

れた。

そして筑紫哲也さんの遺言。『多事争論』という番組の最後に、「物議を醸せ！」と。私は色紙をいただいて持っています。ただ黙ってではだめだ。何か言わなければ日本の国は変わらない。私たちは在野精神を持って、反骨精神を持って、日本のいわゆる中央集権のDNAの「寄らば大樹の陰」「泣くこと地頭には勝てぬ」、長いものに巻かれていればいいんだという発想は、これからの日本の国では無理だ。

まして安倍政権になって、これだけ財務省が復権する。もう万々歳でしょう。それはそれでいいけども、日本の国が元気になれば。だけど、前次官云々が 500 億円の補助金だと言われたら、「おいちょっと待てよ」ということを、今の記者も言わない。

日本銀行の記者会見というのを見たことはないが、日銀総裁が入ってくると、50 人近い新聞記者が全員立ち上がって礼をするそうです。総理大臣が入ってきても、ちょっと頭を下げる人はいますが、記者は座ったままです。

そんなところで 20 年間、日銀は全くお金もまかないで締めて締めていた。インフレになったらどうすると。ならしてみろ、ちょっと、3~4%。これだけ縮まって、収入も 450 万円が 405 万円ぐらいに下がっている。これが今の日本の国の現状です。そこは、きょうのタイトルのように、「地方自治・地域主権」でやっていくことが大切だということが、恐らくこれからの議論の中であると思います。ご清聴ありがとうございました。  
(拍手)